



照りつける太陽の下、基地の近くを行進していると、通学中の小学生と出会った

1972年5月15日の沖縄本土復帰から今年で42年を迎えた。しかし現在も、オスプレイの強行配備、沖縄県知事の辺野古埋め立て申請承認など、県民の意思を顧みない動きが続いている。平和行進は今回で37回目。基地のない平和な沖縄を全国に訴えるためにおこなわれ、3日間で県外からの1,300人を含む延べ約5,000人の参加者が3つのコースにわかれて行進した。兵教組から参加した6人の感想を掲載する。

ピース・アクション2014 5.15 沖縄平和行進

教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8
兵庫県教職員組合
発行人 兵庫県教職員組合 代表者 雄一郎
編集人 池田啓子
電話 050(3538)2346
1部7円 年定価280円
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

2014/8・1
No. 1864

家庭版

反戦平和の創造を誓う

沖縄で考える平和な社会



青年部長・執行委員 三上雅康さん

沖縄教育会館大会議室には大きな祭壇があり、沖縄戦で戦没された教職員、児童・生徒7200人以上の名前が刻まれている。その大きさと刻まれている方々の多さに衝撃を受けた。結

団式は1分間の黙祷から始まった。沖縄県には日本全国の米軍専用施設の約74%が存在し、嘉手納町にいたっては82.8%が米軍基地である。まるで基地の中に沖縄があるようだ。基地のフェンスは街のほうに向いている。基地からは自由に街に行けるが、街から基地へは自由に行けない。こんな不条理がこの日本でまかり通っているのだ。そしてこれは沖縄だけの問題ではない。沖縄県教組の山本委員長

基地の横を歩く小学生



神戸支部・鈴蘭台小 柳真実さん

屋下がりの通学路。広い米軍基地の横を、ランドセルを背負った小学生が歩いている。フェンスの中は

が「沖縄平和学習で学ぶことは、沖縄を通して自分たちの住んでいる地域を学ぶことであり、現在の日本の問題を沖縄で学ぶことである」と言われたことが心に深く残る。

すべての人が「加害者」にも「被害者」にも「傍観者」にもならない社会を築いていくことが、平和な社会に繋がるのだと思う。

この経験をどう活かすか
養父支部・養父中 齋藤綾さん
沖縄の文化は「いちやうりばちよーでえー(出会った人は皆兄弟)」「なんくるないさ(なんとかなるよ)」といった言葉にも表れるようにとても大らかで豊かなものだが、そこには歴史の荒波に翻弄されてきた多くの苦勞や悲しみが裏打ちされていると思う。今、沖縄を翻弄しているのは日米両政府ではないか。そのような思いが日に日に募る。現地の新聞には、平和行進についての記事が連日掲載されていた。同じ期間の全国紙を見てみたが、平和行進の記事は一文もなかった。

沖縄の不安は日本の不安



津名支部・石屋小 樋口毅さん

沖縄本土復帰42年を迎えた5月15日。安倍首相が集団的自衛権の行使容認を表明したこの日に、沖縄平和行進は異様な雰囲気の中でスタートした。実際に沖縄の地を歩くことで沖縄戦の跡や米軍基地を抱える沖縄の現実を肌で感じた。どこまでも切れることのない基地のフェンス、建物のすぐそばを飛び交う戦闘機、基地周辺に住む子どもが日常的に接している音や風景。メディアからの情報のみでは決して分からない沖縄の人々の苦しみを知った。



24万人余の名前が刻印される「平和の礎」

子どもたちに強いている現実
副部長・氷上支部・崇広小 藤井ゆかりさん
辺野古の新基地建設やオスプレイ強行配備など、沖縄の米軍基地にまつわる問題について報道を通じて知ってはいた。しかしそれは「知っているつもり」にすぎなかった。沖縄本島に占める基地の割合は20%。それも人口や産業が密集する中部地域に存在している。話を聞いた時には、それがいったいどの

の程度のものなのか、正直分からなかった。しかし歩いてみると、目の前にフェンスで囲まれた基地が広がった。学校や幼稚園が目と鼻の先にある。すごい騒音をたてながら航空機が飛んでいった。この地の子どもたちが、日々の生活で強いられている現実を目の当たりにし、このままではいけないと強く感じた。これからの自分にできること。それは私が見たことや感じたことを、そのまま子どもたちに伝えていくことだ。それが、沖縄だけの問題にせず自分たちの問題として考えていくことだと思っ

イメージとかけ離れた沖縄
実業支部・一宮北中 澤田真寿美さん
「沖縄」と聞いたとき、透き通ったきれいな海、白い砂浜、さとうきび畑、太陽がまぶしい南国の島を誰かが思い浮かべるだろう。しかし平和行進を通して、これらのイメージとはかけ離れた「沖縄の現実」を目の当たりにした。

私にできることは、一人でも多くの人に沖縄の現状を伝えることだ。今もなお演習の騒音や事件・事故の恐怖に悩まされながら生活している人々が一日も早く歩むのか」と不安を抱かせている。沖縄の人々の不安は日本全体の不安である。沖縄で見たこと、感じたことを胸に、自分に何ができるのか、平和とは何かを考えた。自分自身の意識の低さ

5月15日が何の日であるのかも知らずに参加した私。自分自身の意識の低さ

BeerFesta

ラッセホールビアフェスタ

2014 7/1(火) ~ 9/30(火)

女性グループ限定特典 女性5名様で1名様サービス!!

※日曜日・祝日・お盆期間(8月10日~17日)は実施していません。

90分飲み放題 & 食べ放題 バイキング形式

料金 前売チケット **3,100円**(税込)
当日チケット **3,800円**(税込)

営業時間 17:00~21:00 場所 1F レストラン リビエラ
制限時間 90分 料理 創作料理(和洋中)

※最終受付は20:00となります。※ご予約状況によりお料理は血盛で提供させて頂く場合がございます。※30分延長の場合、お一人様500円の追加料金を頂戴いたします。※満席でお席が準備できない場合がありますので、事前予約をおすすめします。※前売チケットはレストラン又はフロントにてご購入ください。※未成年者の飲酒は固くお断りします。※オプションでビールに合うお料理を多数ご用意しております。

ご予約・お問い合わせ レストラン リビエラ ☎078-291-1311(直通)

ご予約時に「教育ひょうごを見た」と伝えていただければ、前売価格でご利用できます。

〒650-0004 神戸市中央区中山手通4-10-8
4-10-8, nakayamate-dori, chuo-ku, Kobe 650-0004
TEL.078-291-1117(代表) FAX.078-291-0333
http://www.lassehall.com E-mail info@lassehall.com

●神戸市地下鉄東横線前駅より徒歩5分 ●JR、阪神元町駅より徒歩8分
●JR、阪急、阪神、地下鉄三宮駅より徒歩15分 ●高瀬花園駅より徒歩15分
●山陽新幹線新神戸駅より徒歩5分

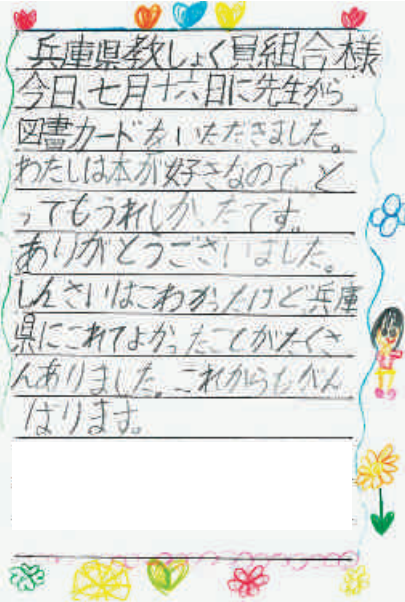
飲み放題アイテム

- キリン一番搾り生ビール
- 黒生ビール
- ハードシードル(リンゴのお酒)
- ハイボール
- 焼酎
- 耐ハイ各種
- ウイスキー
- 赤・白ワイン
- ウーロン茶
- オレンジジュース

児童からお礼の手紙とどく

兵教組「教育文化・社会貢献事業」

東日本大震災に伴う被災地からの 転入児童・生徒への就学支援



兵教組はこれまで、教育文化・社会貢献事業の一環として、東日本大震災により兵庫県にいられている延べ311人(7月末現在)の児童・生徒のみなさんに就学支援として、図書カードを贈る事業をおこなってきた。この事業は、皆さんの理解と協力のもと集められた「協賛金」により運営されている。阪神・淡路大震災を経験したわたしたちができる支援とともに、子どもたちの豊かな学びを保障するためのとりくみをすすめていきたい。今後とも、「教育・文化社会貢献事業」へのご理解とご協力をお願いします。

県人事委員会の伊藤委員長は現時点での回答として、「職種別民間給与実態調査の詳細な集計・分析を行い、民間の給与水準や特別給の支給状況を精査する」「給与と制度の総合的見直し」については、引き続き情報収集に努めることし、中立的かつ公正な第三者機関としての本委員会の使命を果たせるよう、申し入れの内容や趣旨等も考慮しながら、検討をすすめていくと述べた。

7年目をむかえる行革プラン 今年こそ完全回復を

※詳細は闘争速報No.3参照



7月18日、兵教組は県職労とともに、県人事委員会へ賃金・労働条件に関する申し入れをおこなった。冒頭、県職労大野委員長より要請書を手交し、青木書記長が要請書にしたがって趣旨説明をおこなった。引き続き、兵教組川原書記長から、兵教組の実態をふまえ、現給保障と臨時的任用教職員の処遇改善を中心に趣旨説明をおこなった。

労組 賃金・労働条件に関する申し入れを実施

県人事委員会へ

7年目をむかえており今年こそは完全回復の勧告をすることを求めた。

兵教組委員長は、他県の民調の結果により給与を決定するのではなく本県の民調の結果を考慮するよう求め、「給与制度の総合的見直し」による地域間給与配分に関しては、東京への一極集中に拍車がかかり社会構造全体から考えても慎重な検討が必要であると訴えた。

支部だより

宍粟支部 書記長 可藤伸吾さん



宍粟支部は、兵庫県の西の端、自然豊かな少子高齢化のすむ田舎町です。「あくせくせずゆつたりと時間がながれていようか。しかし、そんな田舎町でさえ、現政権の暴挙、教育への政治介入の影響は、確実にあらわれてきています。とりわけ、全国学力・学習状況調査の結果公表

のあり方については、教育の方向性を大きく左右する問題であることから、宍粟の子どもの現状をふまえ、毎晩毎晩議論を重ねてきました。また、地教委とも何度も交渉を重ねてきました。そんな中で、ひとつ見えてきたことがあります。

点数にとらわれず 夢を語れる教育を

それは、我々自身の意識の問題です。政治、世論は、確実に点数主義、成果主義に動いていいます。それでは、我々教職員はどうなのか? 『学力』点教』というような安易な方向に流れてはいないか? 基礎・基本の定着という名ののもとに、プリント学習が増えてはいないか? 学力・学習状況調査と同様に、運動能力・運動習慣等調査においても、ポイントをあげるための授業になってはいないか? 事前練習などにと

りくんではないか? 結果公表の是非をあれこれ言う前に、我々の実践がゆらいではいないでしょうか? 世の中の点数主義、成果主義の流れを、今すぐ止めることは難しいでしょう。だからこそ、我々組合員が、各分会が、そんな流れに流されない確固たる信念をもった日々の授業づくり、学校づくりのとりくみが大変重要になってきます。たとえ、調査の結果が公表されようとも、「それがどうした?」とはね返せるような実践を、子どもたちといっしょに積み上げていかなければなりません。

私たちは、日々、子どもたちと向き合っているのです。そして、日々、子どもたちと夢を語っているの

もちろん、点数主義、成果主義を全否定するわけではありません。しかし、平均点が1点上がった、下がった...、そんなことに一喜一憂する点数のみの世界で、子どもたちとどんな夢を語ろうというのでしょうか? 我々は、世の中がどう変わろうと、絶対に変わらない『その教育』そんな実践をしつかりと積み上げていきます。大変厳しい状況は変わりませんが、今後も一人ひとりの組合員、各分会が思いを共有し、それに対峙し、子どもたちのために、子どもを中心にした教育研究活動の深化にとりくんでいきます。

第64次支部教研、県教研、そして全国へと『その教育』のとりくみを広げていけるよう努力します。ともにがんばりましょう!

「福島県東日本大震災奨学金基金」カンパ寄贈

7月17日、兵教組は「福島県東日本大震災遺児奨学金基金」に組合員のカンパ150万円を福島県教組角田政志委員長を通じて寄贈した。この基金は、将来の福島を担う子どもたちのために、福島県教組と日教弘福島支部が設立したもので、震災で保護者をなくし遺児・孤児となった小・中

学生を対象に月1万円の給付型(返還不要)奨学金を給付している。3年間で延べ216名、総額2592万円が執行されている。本事業は当初の計画では次年度で終了となり、継続

には財源的な課題があるが、角田委員長は「いただいたカンパも活用し、なんらかの形で支援を継続していきたい」と述べた。



「ひまわりの国へようこそ」
新温泉町温泉小学校 二年 中井結姫乃



残暑お見舞い申し上げます。

兵政連(議員団)一同

夏休みファミリーパズル

まちがい探し!

パズル制作:ひろみよこ

右と左の絵をよく見くらべると、違っているところが10ヶ所あります。印刷のヨゴレやカスレは含みません。では、スタート!

どちらかの絵に「10ヶ所」赤丸を入れ、切り取ってはがきに貼って送ってください。お名前、年齢、支部、住所(郵便番号)を明記の上、ご応募ください。また、本紙の感想などもお寄せください。20名様に粗品を差し上げます。

締め切りは9月8日(消印有効) / 宛先: 〒650-0004神戸市中央区中山手通4-10-8 兵庫県教職員組合「教育ひょうご編集部」まで

